
まあまあだったね。

関村俊介

登場人物

ハシモト（橋本） 主人公。バネ工場の社員。

サカタ（坂田） 宇宙飛行士。ハシモトの元同僚かつ、親友。

キリシマ（桐島） バネ工場の社長。

ツカハラ（塚原） ハシモトの同僚。

ハマグチ（浜口） ハシモトの同僚。

キシモト（岸本） ハシモトの部門の新人。

コイズミ（小泉） 経理部長。

マツザワ（松沢） ハマグチとツカハラの上司。

ミヤカワ（宮川） 営業。

ヤマモト（山本） 医者。

喫煙所。灰皿と、あとは飲み物とか置けるようなカウンター。

ハシモトがいる、作業着を着ている。電話をしている。

橋本 あ、うん、そう、仕事中。ま、ちよつとくらいなら、大丈夫。喫煙所きたから。タバコ吸うくらい
いの時間ならさ、怒られないし。

サカタがどっかに出てくる。なんか別の場所にいる。電話をしている。

坂田 よかった。や、ほら、帰ってきたらすぐ電話しろ、って言ってたじゃんお前。

橋本 言っただけさ。

坂田 ただいま。

橋本 ああ。

坂田 おかえり、って言わないんだ。

橋本 言わないよ、気持ち悪い。

坂田 愛がねえなあ。

橋本 ねえよ、そんなもん。

坂田 そりゃそうか。

話しながらタバコの箱を取り出し吸おうとするが、
タバコが入ってなかった。箱を潰す。

橋本 で、どうだった？

坂田 ん？

橋本 宇宙。

坂田 あー。うーん。そんなこと聞きたいの？

橋本 それが聞きたかったから、帰ってきたらすぐ電話しろ、って言ったんだ。

坂田 しようと思えば、宇宙から電話できたのに。

橋本 え！？なんだよ、先に言えよ。

坂田 ごめんごめん。

橋本 なんだよ。ま、終わったことはしょうがないか。で、どうだったんだよ。

坂田 あー。

橋本 取材とかだとき、宇宙飛行士って、かつこいいこと言うじゃない。そういうんじゃない、と、友達だから聞けるような感想を聞きたくてさ、もっ

坂田　　そういうことか。

橋本　　そういうことだよ。で、どうだった？

坂田　　うーん。

橋本　　なんだよ。

坂田　　どうだった？か。

橋本　　そ、どうだった？

坂田　　：まあまあだったね。それよかさあ

橋本　　ちよつと待てよ。

坂田　　なに？

橋本　　おい！

坂田　　なに？

橋本　　なんだ、その感想は。

坂田　　そういう感想なんだからしかたないだろ。

橋本　　いやいやいや、もっとあるだろう、普通。

坂田　　うーん、ないなあ。なんかごめんな。

橋本　　おかしいだろ。

坂田　ごめんな。あ、じゃあ、今度宇宙に行った時はさ、宇宙から電話かけるよ。そしたら、なんか、お前が気に入るようなこと言えると思う。

橋本　おお。それいいね。

坂田　じゃ、それで。それよかさ、もうすぐ日本に帰るからさ。

橋本　え？今、日本じゃないの？

坂田　まだ、宇宙から帰ってきただけだから。お前がすぐ電話しろっていうから、地球に帰ってきてすぐ電話したんだろ。

橋本　そっか。

坂田　でさ、日本帰ったら、お前のところ遊びに行くわ。

橋本　おう。

坂田　じゃ、また、その時にでも。

橋本　おう。じゃ、また。

ハシモトは電話を切る。サカタは去る。

ちよつと何かを考えてから、ハシモトは仕事に戻った。

暗転。

明るくなると、キリシマが椅子に座っている。

キリシマはたぶんジャージ。

ハシモトが来る（てか、来てる途中から始めたい）。

当然のようにタバコを吸おうとすると、

キリシマがあわてて近付いてくる。

桐島

ダメだよ。

と言って、もとの椅子に戻る。

よくわからないので、気をとりなおしてタバコを吸おうとすると、

また、キリシマは近付いてくる。

桐島

ダメだよ。

今度はハシモトをじっと見ている。

橋本

え？

桐島

ダメだよ。

橋本 何がですか？

桐島 …ダメだよ。

橋本 だから何がですか？

桐島 タバコだよ。わかるだろ。

橋本 わかんないですよ。ここ喫煙所ですから。

タバコを吸おうとする。

キリシマはそれを奪って、食べようとする、
が、食べたら死ぬ、と思い、灰皿に捨てた。

橋本 なにするんですか、もったいない。あと、なんで1回食べようとしたんです。

桐島 食べなかっただろう。

橋本 そうですけど。

桐島 食べたら死ぬかもしれないからな。

橋本 そうですけど、だからこそなんで食べようとしたのかな、って。

桐島 あるだろうそういうこと。冷静だったらダメってわかることをカーッとやってやっちゃうこと。

橋本 あー、ありますね。あるある。

桐島
それだよ。

橋本
そうですか。いや、それよりね、なんでダメなんですか？タバコ。

桐島
ここが喫煙所だったのは、昨日までだから。

橋本
え？

桐島
今日から、この工場（こうば）、全館禁煙なの。

橋本
えー？そんなこと聞いてないですよ？

桐島
貼ってあっただろう、階段のところに、貼り紙。

橋本
そんなの読まないからなあ。

桐島
読めよ。

橋本
誰も読んでないですよ貼り紙なんか。

ツカハラが来る。ツカハラも作業着。

塚原
おう。おつかれ。どうよそっちの調子は？

ツカハラもタバコを吸おうとする。

桐島　ダメだよ。

塚原　え？

橋本　今日から、ここ喫煙所じゃなくなるんだって、知ってた？

塚原　知らない。

橋本　ほら、誰も知らないじゃないですか。

桐島　君たち2人がたまたま知らなかったただけだろ。

橋本　そんなことないと思うけどなあ。

桐島　階段のところに貼り紙してあったから。

塚原　あんなの読まないでしょ。

橋本　だよね。

桐島　読んでくださいよ、あそこには、大事な大事なお知らせが書いてあるんだから。

塚原　え？おじさん何者なんですか？

桐島　おじさんって言うな。

塚原　おばさん何者…

桐島　おばさんでもねえよ。

塚原　じゃあ、お名前は？

桐島 キリシマ。

塚原 わかりました。キリシマ、あんたいったい何者なの？

桐島 さん、を付けろよ。

塚原 あ、初対面ですもんね。キリシマさん、あんたなんなんで…あれ？キリシマって聞いたことあるな。なんだっけな。

桐島 社長だからな。

橋本 社長？社長って、うちの会社の？

桐島 そうだよ。

ハシモトはちょっと、しまった、みたいな顔をしたが。

塚原 俺は、あんたが社長だからって、ヘコヘコするような人間じゃない。

橋本 お前、すげえな。

桐島 別にいいけど、俺がダメって言ってるんだからタバコはダメだよ。

塚原 1本だけ！

桐島 ダメだよ。

塚原 いいじゃないですか。かわいい社員がこんなにタバコを欲してるんですよ。

桐島 俺のことを知らない社員なんかかわいくない。

塚原 ちくしょう！こんな会社辞めてやる！

橋本 おいつかハラ、落ち着けよ。そんなことで辞めてどうする。

塚原 どうかするよ。人間には無限の可能性があるから。

橋本 いいこと言ったけど、タバコくらいで辞めるのは愚かだよ。

塚原 そうか。そうだな。社長、俺、辞めません。

桐島 あ、うん。

ハマグチが来る。作業着を着ている。

浜口 ういーっす。

入ってきながら、タバコを吸おうとしていた。

塚原 ダメだよ。

桐島 俺が言おうとしてたのに。

浜口 え？なに？

塚原 今日からここ喫煙所じゃないんだって。

浜口 なにそれ。

塚原 知らないけど。そういえば、なんで禁煙にするんです？

桐島 健康のためだよ。

浜口 え？どちらさま？

橋本 社長。

浜口 …本当は？

桐島 本当に社長だよ。なんで、誰も社長の顔を知らないんだ。

浜口 だって会ったことないですから。

桐島 なんか悲しくなってきたわ。

キリシマは椅子に戻った。

塚原 そうか。

橋本 なに？

塚原 簡単に信じちゃったけどさ、あの人が社長っていう証拠はいまのところないよね。
橋本 でも、嘘で言うわけないんじゃない？

塚原 いや、わかんないよ。ちょっと調べてみよう。おい、インターネット貸してくれ。

浜口 アイフォンのことかな？

塚原 なんでもいいから、早くインターネット貸せよ。

浜口 はい。

と、アイフォンを貸した。

橋本 あれをインターネットって呼んじやったら、もう中年だよな。

浜口 な。そんな中年が使いこなせるのかね。

塚原 おい、これ、どうやってやるんだ？

浜口 だよな、俺、調べるよ。

塚原 おー、頼む。

浜口 会社のホームページ見れば、社長の顔くらい載ってるよね。

橋本 あのさ、調べなくてもさ、信じたほうがいいんじゃない？
塚原 なんで？

橋本 いや、もし本当に社長だったらさ、なんかやばくない？

塚原 そうか？でも、俺は偽物だと思うから。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

まあまあだったね。（おためしサンプル）

2012年7月15日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2012年
発行者 石村寛之
発行所 有限会社レトロインク
〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7
電話 0422-49-2903
